

プロフィール



名前	田中 智
所属部署	東京大学農学部 細胞生化学研究室
職種	教授
この研究室に入った日	1998・4
出身地	山形生まれ秋田育ち
趣味	ビール

インタビュー

Q1 現在の研究内容は？

マウス栄養膜幹細胞（TS細胞）を始めとした幹細胞生物学が主なテーマです。TS細胞が初めて樹立されてから今年でちょうど20年ですが、TS細胞の分化誘導法の確立や、ヒトやサルなど霊長類TS細胞の樹立、ES細胞とTS細胞を隔てるエピジェネティクス制御の解明など・・・やりたいこと関心ごとはたくさんありますね。

Q2 ご自分のお名前がついた細胞はやはり愛着がわきますか？

TSはTrophoblast Stemの略です。Tanaka Satoshiじゃありません。トロントのJanet Rossant博士のLabでポスドクとして留学中に樹立することができました。

Q3 幹細胞生物学以外に何か研究室で進めている研究テーマはありますか？

タンパク質の糖鎖修飾の一つのO-GlcNAc修飾に注目しています。前任の塩田教授が新規のヒストンO-GlcNAc修飾を発見し、その特異抗体を作ることができました。エピジェネティクス因子として、新規ヒストン修飾のゲノムワイドな局在解析や機能解

析を行っています。幹細胞生物学とエピジェネティクスは密接に関わる研究分野だと思うので、関心は非常に高いですね。

Q4 この分野に入ったきっかけは何ですか？

留学先でTS細胞を樹立したことが大きなきっかけです。留学先で与えられたテーマが胎盤特異的に発現する遺伝子の発現制御機構の解明でした。しかし、当時in vitroで解析可能な栄養膜細胞株がなく、解析ツールを作ろうとなり樹立するに至りました。留学から帰る最後の数カ月で運よく樹立することができ、そこから現在までTS細胞に関わる様々な研究を続けています。

Q5 今、何を一番知りたいですか？

不思議に思うことは小さなことも大きなこともなんでも知りたいですね。例えばTS細胞についてみても、今のin vitroの分化誘導系だと大半が栄養膜巨細胞に分化して、TS細胞を扱う研究者からはそれが当たり前のことのように気に留められていないんですが、なぜなんだろうと理由が知りたいですね。思い浮かぶ素朴な疑問はどれも知りたいことです。

Q6 研究室の雰囲気は？

現在、教員3名、秘書1名、学生9名が所属しており、和気あいあいとしていい雰囲気だと思います。学部生への実習後の打ち上げや季節ごとのイベントの時はよく飲み会をしています。冬場は鍋が定番ですね。大学のソフトボール大会にも研究室単位で参加したりと室員同士の交流は活発な方だと思います。

Q7 学生との接し方は？

毎週のプログレスゼミや論文ゼミを通して、研究の進捗や最新の知見について共有する機会を設けています。月末に月報を提出してもらっているのに加えて、新しいデータ

がでると学生の方から部屋をノックしに来てくれることが多いので、その時は作業をとめて、できる限りディスカッションに時間を割くようにしています。学生が気軽に相談できる関係ができればいいなと思っています。

Q8 最後に、研究者を志す学生に一言メッセージをお願いします。
なんとかなるさ！ 研究者として一芸を持とう。（宴会芸ではなく）



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO



Lab Cell Biochem
Animal Resource Sciences &
Veterinary Medical Sciences,
The University of Tokyo